

変更のうえ開通)の創設をはじめ幾多の私鉄育成に貢献したが晩年は高島易断所を設立して開祖となった。大正3・10・16 神奈川台の私邸でせい去し、藤沢市本覚寺に葬られた。

(福田 一)

ただしゅんぼう 竹田春風 弘化2年長門国(山口県)萩藩士竹田純朴の二男として生まれ、初名を庸二郎といった。明治2年脱藩して洋行(石橋絢彦回顧録による)、翌3年暮れ帰国して民部省准十等出仕となったが、同郷の先輩井上 勝に迎えられて工部省に転じ、奏任に抜てきされて鉄道寮横浜出張所の事務を担当した。当時横浜出張所は六郷川を境界として横浜まで管轄していたが、主要な事業として横浜停車場付近の海面3万坪の埋立工事と横浜乗降場・横浜機関車庫の建設に当たった。

明治4年鉄道助に任ぜられ、鉄道権助佐畑信之とともに横浜出張所において、京浜間の鉄道創業に力を尽くした。次いで同5年建築課が置かれ、その初代建築課長に就任した。

同年開業式に当たっては、鉄道創設の功労者として井上 勝とならんで賞金を下賜された。翌年井上 勝が鉄道頭をやめたときに、工部少丞に転任して、工部大輔*山尾庸三のもとで鉄道寮を管理した。ところが明治7年井上 勝が再び鉄道頭となるに及んで、再び鉄道寮にもどって鉄道助となり、大阪鉄道寮に転じて大阪・神戸間と京都・大阪間の鉄道建設に専心した。

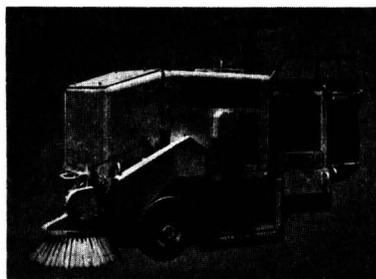
明治10年京阪神間鉄道の開業式が挙行されたが、この年西南戦争が起こったため、初の軍事輸送に直直し、京都・神戸間の運輸を担当して功績をあげた。こえて同11年、大野誠大書記官の後任として新橋鉄道局に移り、京浜間の運輸を管理した。明治15年工部大学長大島圭介が元老院議員に転じたあと、同大学副長に任ぜられ、もっぱら大学の運営に当たった。

功により従五位勲六等に叙されたが、明治24・12・6病のため47才の若さで没し、青山墓地に葬られた。(高木俊爽)

ダストスイーパ(英) dust sweeper 駅・区・工場等の構内・通路・作業場等の環境衛生を良くするため、清掃作業方法の研究が取り上げられ、能率的で衛生的な清掃作業を行なう目的で、従来、人力に依存していたのを機械に置き換え、清掃機ダストスイーパが各所で採用され始めた。

その特長は、次のようである。

- (1) 人力の数
十倍もの能力をもつ。
- (2) 散水の必要がない。
- (3) 小さなほこりでも清掃できる。



(4) すべての **ダストスイーパ** 操作が1人で容易に行なえる。

ダストスイーパは、一般に3輪車または4輪車で、エンジンあるいは蓄電池によって、主ブラシ・側ブラシを回転するとともに、スイーパを動かす

側ブラシは、車体前部側面に取り付けられ、ごみを車体の中央寄りに集める。主ブラシは、車体の下側で、そのごみを受けさら(皿)に掃き込む。そのときに発生するほこりは、真空吸じん装置で吸収するのが、ダストスイーパによる清掃方式である。

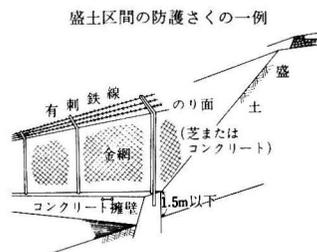
清掃能力は、狭い場所向きの歩き運転形で、1,400m²/h程度のもから、広い構内や道路等に適するとう(塔)乗形で、10,000m²/h以上のものまで各種あり、用途に応じて選択できる。

写真は中形のとう乗形スイーパの一例で、車長約2m、車幅約1mの3輪形である。とう載エンジンは13HP、時速7kmで清掃でき、その能力は約7,000m²/hである。(白石岱治)

たちいりぼうごさく 立入り防護さく 新幹線の列車の最高速度は210km/hで、ブレーキ距離は、約3kmとなっている。このブレーキ距離は、運転士が肉眼をもって確認できる距離よりもはるかに大きいので、運転士の注意力により支障物を発見し、たとえ列車を非常ブレーキにより停止させるとしても、その危険を防止することは困難である。

また線路内に自由に入りができると、線路通行に伴う列車との接触による死傷事故あるいは置石等による列車妨害等の発生が予測される

ので、このような事故を防止するため、みだりに線路内に立ち入るのを防止する対策として設けたさくを立入り防護さくという。立入り防護さくは盛土区間および切取り区間に設けられている。なお盛土区間は両斜面最下部のコンクリート擁壁の高さが1.5m以下の箇所のみ設けられている。(四条勇助)



たつこせん 田子線 東北本線北福岡駅から青森県三戸郡田子町清水頭に至る国鉄自動車路線で、所管する北福岡自動車営業所は岩手県二戸郡福岡町にある。

1 区間・キロ程および沿革

北福岡～福岡長嶺	3.7km	昭14・11・25 開業
福岡長嶺～九戸通	3.7	昭17・9・1
福岡長嶺～上斗米	10.4	昭28・7・5
上斗米～上田子	16.5	昭29・8・1

本路線は昭和37・10・1二戸線から分離した。

2 営業範囲

旅客および手荷物の取扱いをしている。

3 使命

この地域の産業文化の発展助長を使命としている。今後清水頭から先、宇樽部までの路線(申請中)が開通すると、東北本線と十和田湖畔を短絡する路線となる。

4 特長

青森・岩手の両県境の山間町村を走っているが、雄大な高原風景を誇る迷ヶ平高原・十和田湖などを控えており、路線が伸びれば観光価値はきわめて大きい。(佐野 実)



だっせんけいすう 脱線係数 車両の走行中の車輪と、軌条間に作用する横圧Q, 垂直圧Pを測定して、Q, P, および Q/P の値から走行中の安全性を確かめる。Q/P を脱線係数とし、特に高速で走行する場合の車両運動と軌道状態、新製された車両の走行性能の判定、脱線事故原因の究明などに必要である。Qが大きいことは軌条を押し広げ、軌道を破壊する原因となり、車輪フランジの摩耗の原因ともなる。Pについては、その値が小さければ、車輪は浮き上がる傾向にあり、大きければ車輪が軌条にたたきつけられながら走行していることを意味し、Pが大きいことは車軸に大きな応力がかかっていることで、